V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」

2021～2023 年度：中期活動計画【総括】 ※担当組織の詳細は次頁以降

分野名	テーマ	SDGs の該当項	担当組織
1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換	生産・加工・設計・評価技術の人財力の強化	3. すべての人に健康と福祉を	①人財育成委員会
	安全、安心で誰もが働きやすい職場づくり （災害・事故の無い、安全で健康な職場づくり）	8. 働きがいも経済成長も	②安全衛生委員会
	多様な人財が活躍する職場の実現	5. ジェンダー平等を実現しよう	③バルブ女史ネットワーク
	次世代経営者人財育成、事業承継	－	④清流会（分野 1）
	技術、技能の向上と企業間の技術情報の共有化	4. 質の高い教育をみんなに	⑤技術委員会
2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり	国際競争力を高め、信頼性の高いブランド力の強化	6. 安全な水とトイレを世界中に	⑥水栓部会
	ユーザーニーズに即した商品づくりや関連団体との協業	－	⑦バルブ部会
	ものづくりの労働生産性向上 （少子高齢化の流れの中、人手に頼らないものづくり）	12.つくる責任、つかう責任	⑧自動弁部会
3. 社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化	災害、感染リスクに対応できるレジリエント（強靭）な企業経営	11.住み続けられるまちづくり	⑨清流会（分野 3）
	・環境負荷の少ないものづくり、環境意識の高い職場づくり ・守りの環境規制対応から攻めの環境経営への移行	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 12.つくる責任、つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を	⑩環境委員会
4. バルブ産業の認知度向上	・産官学の連携向上 ・学生、中途の人財獲得	－	⑪広報委員会
		－	⑫バルブ技報編集委員会

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

①人財育成委員会

分野名	**1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換** ＜背景、課題、リスク＞ 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革（ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長、健康寿命の延伸、高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善
テーマ	◇生産・加工・設計・評価技術の人財力の強化
活動目標 （目指す姿）	①会員企業の技術力向上を底上げするため、必要なスキルやレベルが把握できるような年間の研修メニューが計画的に立てられている。 ②会員企業が年間の受講計画を立てやすいよう、ニーズがある科目の過不足がない研修メニューができている。
成　果	①バルブ塾を基本分野（Q、C、D）、基準・法令、個別分野に科目を揃え、これまでの基礎編講義に加え応用編や新規講座を開催し体系化を進め、年間スケジュールを最終年度で構成することができた。 ②年間講義一覧表を会員企業で活用できるような準備を行った。 ③会員企業へ TOP 訪問を実施し、当委員会の重点活動への聞き取りを行い、成果④への具体化計画に反映した。 ④社内コミュニケーション力強化セミナー「自分史づくりの活用」を実施し、制作後の意見交換会を実施した。 ⑤人財バンク制度におけるニーズ・シーズを精査し、課題と留意点の見える化も行った。 ⑥委員企業の増強・多様性の拡大（男女比率 50%）
残された課題と 次のテーマ	①新たな環境変化に伴うニーズに応えるため、他組織と連携し、工業会内外の研修事業を会員に向けに発信していく。 ②体系図のうち階層別の分け方がニーズに合うように実施できているか検証して補強する。 ③会員企業内に研修事業担当者を設けてもらい、研修会 NW を新設して各社の受講推進をサポートできる取り組みを実施。 ④人財バンクは法令などを再調査し、工業会で実施可能な方法を考案する。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

②安全衛生委員会

分野名	**1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換** ＜背景、課題、リスク＞ 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革（ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長、健康寿命の延伸、高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善
テーマ	◇安全、安心で誰もが働きやすい職場づくり ・災害・事故の無い、安全で健康な職場づくり
活動目標 （目指す姿）	①他業種よりも安全な業界を実現できている。 ②業界の実情や取組内容を対外向けに PR できている。 ③安全衛生委員会が、会員の労働安全衛生向上のための情報提供などのサポートを行っている。 ④バルブ安心安全ネットワークが多くの参加者にとって有益な活動となり、自発的な活動が定期的に継続開催されている。 ⑤会員の 3/4 以上がバルブ安心安全ネットワークに加入し、積極的に参加している。 ⑥健康経営ネットワークが実現できている。
成　果	①バルブ安心安全ネットワークの構成社数は 51 社となり（発足時は 37 社）、年 4 回の定期開催を継続するミーティングには常時 30 名～40 名以上が参加している。 ②労働災害実態調査への回答社数も毎回増えており、最新の第 4 回調査には正会員 83 社から協力をいただいた（回答率 72.8%）。 ③ネットワーク活動と労災調査を通じて業界全体的な課題を把握し、“共通リスクアセスメントシート作り”の制作に着手した（24 年 3 月完成予定）。 ④安衛法改正への対応をテーマとしたセミナー（22 年 11 月開催）には約 70 名が参加、また、23 年 11 月に 4 年ぶりに開催した工場見学会にも定員（25 名）を超える申込をいただくなど、会員ニーズに応える事業を実施できた。
残された課題と 次のテーマ	①ネットワーク構成社数が 22 年度以降は伸び悩み、また、ミーティング参加企業も固定化しつつある。活性化のための策が必要。 ②コロナ禍でのネットワーク発足だったこともあり、現場を見てそこから学ぶ機会がなかった。 ③労災調査の結果は思わしくなく、度数率（事故の起こりやすさ）は他の製造業よりも高い傾向が続く。 ④リスクアセスメント実施企業増やすための取組みが不足していた。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

③バルブ女史ネットワーク

分野名	**1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換** ＜背景、課題、リスク＞ 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革（ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長、健康寿命の延伸、高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善
テーマ	◇多様な人財が活躍する職場の実現
活動目標 （目指す姿）	①会員企業の女性社員が参加しやすいイベントの企画立案および提供を行い、NW メンバーのイキイキ度や成長度が向上できている。 ②NW 活動を業界内外へ広く周知することにより「女性が働きやすい業界」の PR ができている。 ③NW メンバーが情報の”ツナギ役”として、セミナー等で得た女性活躍推進に関する知識の展開、意見交換が実施できている。
成　果	①NW メンバーが輪番制で実施している参考資料発表や、イベントごとに割り振る担当グループでのテーマの深掘り作業により、NW メンバー自身の成長意欲の向上、人財が活躍できる職場づくりについての知識の向上が図られている。 ②バルブ女史 NW の web コンテンツにおいて、セミナーや意見交換会、経営者インタビュー等の活動報告の掲載、並びに関連団体機関紙や業界新聞への NW 活動の PR 記事掲載により、業界内外に広く活動を周知し、業界のイメージアップに繋げた。 また、先進的な女性活躍推進に関する取組み事例として、NW 活動についてのヒアリング希望があり、経済産業省担当官との意見交換を行った。（2024 年 2 月） ③「自分らしい働き方とは」とのテーマのもと、会員企業女性社員と NW メンバーとの意見交換会を実施。自身を振り返り働き方を考える機会を提供した。 （2023 年 9 月：(株)キッツ 茅野工場訪問）
残された課題と 次のテーマ	【課　題】 セミナー等で得た知識の会員企業への展開 【テーマ】 NW メンバーが会員企業訪問もしくは集合研修として、女性社員との意見交換会を実施。自身を振り返り、モチベーションアップのための働きかけを行う。 （本年度実施事業が好評だったため、継続事業とする）

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

④清流会（分野１）

分野名	**1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換** ＜背景、課題、リスク＞　労働力・労働人口の減少 ・働き方改革（ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長、健康寿命の延伸、高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善
テーマ	◇次世代経営者人財育成、事業承継
活動目標 （目指す姿）	若手経営者ネットワークの深化と更なる拡大を図り、若手経営者の人脈づくりに寄与できている。 （毎年度ごとにメンバー数増）
成　果	メンバー企業の見学会： 2022 年度 キタムラフォーセット、ミズタニバルブ工業／2023 年度 スリーエス、東工・バレックス メンバー企業の見学会はコロナ禍の 2021 年度を除いて毎年実施し、ネットワークの深化を図ることができた。 2022 年度の見学会では東海支部所属の若手経営者との交流会も実施し、ネットワーク拡大に向けた下地作りを行った。 その他、工業会行事において積極的にメンバーを勧誘し 1 社が新たに清流会に加入した。
残された課題と 次のテーマ	先輩経営者との座談会も計画していたが実施することができなかった。BCP や周年行事の検討など他事業との兼合いから本目標に注力することができず、計画立案時における見通しが今後の検討課題となる。 メンバー数の増加については 1 社の加入を達成したが、毎年度ごとに加入増との目標は達成できなかった。メンバー勧誘が工業会行事の際に限られ、計画的な手法が確率できていなかったことも課題である。 本目標については引き続き次期計画の一つとし、ネットワーク拡大のため活動内容の充実化とより効果的な清流会の周知方法を検討していく。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑤技術委員会

分野名	**1. 次世代へつなげる新しい働き方への転換** ＜背景、課題、リスク＞ 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革（ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長、健康寿命の延伸、高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善
テーマ	◇技術、技能の向上と企業間の技術情報の共有化
活動目標 （目指す姿）	①技能評価への権威付けが図られ、業界の地位がさらに向上している。 ②企業ブランドが向上し、バルブ産業の振興に貢献できている。 ③従業員のモチベーションアップにつながり、人財定着できている。
成 果	①バルブ初級研修の会員向け・公開講座を全面 Web やハイブリッド開催で実施し、座学での基礎研修の場であるほか、親睦を深める会合を望む声を再確認し、公開講座では初となるメーカーとユーザーによる交流の場を設けた。 ②新板バルブ便覧の第二版の発刊では、環境への取り組み、IoT・AI との関係に関する新章を設け、関連規格の最新版との整合性を図る改訂作業を行った。 ③技能認定制度の新設に関する調査を進め、既に外部団体で実施中である銅合金鋳造技能検定の取得率を高めるための事前説明会開催のニーズ調査を実施（結果、開催ニーズは少なかったため未開催）。 ④外部の表彰制度をメルマガ（JVMA ネクスト）で紹介するとともに、会員企業から当会の推薦依頼が届いた際の承認までのフローの構築・実施（同推薦依頼企業は第 48 回 日本発明大賞「考案功労賞」を受賞）。 ⑤当会に届く技術的な問い合わせの対応やその回答レベルの規準を設けた。 ⑥バルブ強度計算の標準化、日本金属接手協会との 40K、63K フランジの JIS 化への検討議題を設け、有識者への協力依頼内容や対応方針の議論を進めた。 ⑦技能認定制度の検討から派生し、バルブ業界の技術者としてあるべき人財像を示すため、また、バルブに携わる技能職のスキルレベルの見える化を図り、会員企業が活用してもらえるようなバルブ業界の技能マップづくりの準備を行った。
残された課題と 次のテーマ	①技術課題・研修事業・規格・環境動向の確認や検討は、既に他組織でも検討がなされていることから、当委員会の在り方を見直す必要がある。 ②バルブ初級研修は、以前には座学のほか見学会も実施していた経緯もあることから、同研修会の受講者向けに、現場や製品に触れることができるような若手技術者向けの見学会や交流会を座学とは別日程で開催する。 ③技能マップは作成後の活用方法を継続検討するとともに、弁種の構造・市場がまとめられている既存の資料（バルブダイジェスト）の刷新を図り、バルブ初級研修でのテキスト類として活用できる取り組みを進める。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑥水栓部会

分野名	**2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり** ＜背景、課題、リスク＞ 日本市場の縮小、地政学的危機 バルブに精通し、正しく取り扱えるユーザー減少 次世代情報技術や先進技術の早期導入 5G、光通信、AI、IoT、DX カーボンニュートラル、水素技術
テーマ	◇国際競争力を高め、信頼性の高いブランド力の強化
活動目標 （目指す姿）	①国際標準： 日本に有益な ISO PC316（節水規格）の規格発行により、給水栓分野の国際競争力の確保を達成している。 ②逆流防止に関する調査： 世界各国の逆流防止の基準、法規、システムなどを調査し、調査報告書としてとりまとめる。これをもって、国内メーカの逆流防止に関する技術力向上と国内規制の強化に備えることが出来ている。
成　果	**①国際標準：** 水回り機器の節水性能を国際標準とすることを目的に ISO に設置された PC316（節水製品-評価）委員会について、関連団体と連携し工業会も委員として参画した。対面(スイス、シンガポール)又はオンラインの国際会議に全て出席し積極的な日本意見の発信を行った。規格は 2022 年 6 月に ISO 31600(水効率ラベリングプログラム)として発行され、規格に日本独自の基準である節湯水栓基準を盛り込むことを達成し、給水栓分野の国際競争力の確保に資することができた。 **②逆流防止に関する調査：** 水栓部会に WG を設置し 24 回の会合を実施し検討を重ねた。ヨーロッパの地域規格である EN 1717（給水設備における飲料水の汚染防止及び逆流防止装置に対する要求事項）の内容調査を行い規格の解釈案を作成。ヨーロッパにおける逆流防止に関しての知見を深めた。 また、厚労省が 2010 年代後半に取り纏めた「給水用具と逆流防止措置（案）」においてグレーな認識となっている逆流防止装置に関する工業会の見解を作成した。これは、国内で逆流防止に関する議論が再開された際に工業会が見解を主張するための備えとできる。 EN1717 の解釈案、逆流防止に関する工業会の見解は水栓部会内で共有し部会メンバーの知見も深めた。
残された課題と 次のテーマ	水回りの節水に関する国際標準については新たな規格作成の動向はないが、現行規格の規格改正などに対応していく。 逆流防止に関する調査内容については、国内議論が再開された際に積極的に活用していく。 さらに 2023 年度から水栓の LCA 構築のための WG を設置。2024 年度からの新中期計画において水栓の LCA 構築をはかる。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑦バルブ部会

分野名	**2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり** ＜背景、課題、リスク＞ 日本市場の縮小、地政学的危機 バルブに精通し、正しく取り扱えるユーザー減少 次世代情報技術や先進技術の早期導入 5G、光通信、AI、IoT、DX カーボンニュートラル、水素技術
テーマ	◇ユーザーニーズに即した商品づくりや関連団体との協業
活動目標 （目指す姿）	①業界団体としての活動を生かし、関連団体との定期的な意見交換会の仕組みができ、事業活動に生かせている。 ②バルブ設計や評価に役立つガイドラインが会員やユーザーに常に活用されている。 ③ユーザーにとって役立つ勉強会やセミナーが計画的に開催されている。
成　果	2022 年 2 月 「バルブ初級研修公開講座～問題解決編」開催（ユーザー、会員あわせて 86 名受講）。 2022 年 12 月　JV3「バルブユーザーガイド」改正。 2023 年 1 月　建築設備用途ユーザー向け Web コンテンツ開設。開設後は多数の PV を記録し、ユーザーからも好評とのこと。 2023 年　ユーザー向け動画コンテンツ制作開始。 2024 年 2 月　一般社団法人東京都設備設計事務所協会（MET）との意見交換会を開催。
残された課題と 次のテーマ	V70 では、セミナー開催や Web コンテンツ制作等、ユーザーへの啓発活動を実施できたが、継続性に欠ける点があったので、次期中期計画ではこれら事業をコンスタントに実施できるようにしたい。次期計画においても引き続き、ユーザーニーズへの対応、メーカー側の共通課題解決が大きな活動テーマとなるが、訴求力を高めるためにもデジタル・ビジュアル面の強化が課題となる。幅広い視点からの事業の企画、活動成果の広範な共有のためには、バルブ部会内の各分科会同士のみならず、他部会とも連携をとりながら活動を進めることが求められる。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑧自動弁部会

分野名	**2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり** ＜背景、課題、リスク＞ 日本市場の縮小、地政学的危機 バルブに精通し、正しく取り扱えるユーザー減少 次世代情報技術や先進技術の早期導入 5G、光通信、AI、IoT、DX カーボンニュートラル、水素技術
テーマ	◇ものづくりの労働生産性向上 ・少子高齢化の流れの中、人手に頼らないものづくり
活動目標 （目指す姿）	中小企業においても IoT、自動化などを行い、技術力・生産性の向上を推進させることを計画できる企業が増えている。
成　果	①先端技術見学会として、Web での工場見学を実施するとともに、Web 見学を受け入れる際のノウハウを得られる場を設けた。 ②バルブ初級研修における「自動弁の概要」講義新設に伴い、テキストの確認や当該講師へのフィードバックを行うとともに、従来の各種自動弁講義テキストの見直しを行った。 ③ショップツアーの在り方を見直し、実施した。 ④部会所属企業の参画率向上を図るため、部会員本人以外の代理出席や、性別や所属を問わない若手人財の部会会議・懇親会への同行を推奨するとともに、従来の会議時間の見直しや親睦を深める場を増やすことにより、今後の事業活動への意見交換を行った。 ⑤部会員所属企業は製造品目が多岐に渡ることもあり、各社が抱える困り事などの共通議題を設けることが難しいことを再認識できた。
残された課題と 次のテーマ	①部会所属企業間での幅広な意見交換・親睦を深めるため、部会出席率の向上が課題。出席が難しい所属企業に参加してもらえるよう、該当企業への個別のニーズ・現況の調査を行う。 ②ショップツアー見学先は会議出席する部会員の提案で決まることが多く、実際に案内が届いた会員企業や実際の参加者のニーズに沿っているか疑問である声もあったため、普段自社以外の工場などを見学する機会のない若手人財にもより参加してもらえるよう、部会員企業の若手人財で構成される WG を新設して運用方法を検討してもらい、提案や意見を取り入れた事業を推進する。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑨清流会（分野 3）

分野名	**3. 社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化** ＜背景、課題、リスク＞ 地球環境の変化（温暖化） 甚大災害、感染症の拡大 環境規制の強化 地球環境の変化（温暖化）
テーマ	◇災害、感染リスクに対応できるレジリエント（強靭）な企業経営
活動目標 （目指す姿）	①会員企業の事業継続力強化計画認定制度などの認知率が向上している。 ②会員企業（サプライチェーン含む）の事業継続力強化計画の認定取得率が向上している。
成　果	2021 年 9 月：会員企業の事業継続力強化計画認定制度および BCP 策定率把握のためのアンケート実施 ⇒制度把握会員および BCP 策定済会員は約 50%(回答率 51%)。アンケートを受け制度を周知するためのセミナーを企画。 2023 年 2 月：会員向け「事業継続力強化計画対策セミナー」開催（受講者 26 名） 2023 年 9 月：清流会会合にて「連携事業継続力強化計画認定制度」、会員企業のリスクマネジメントについての勉強会実施 会員向けに事業継続力強化計画認定制度についてセミナー開催及び情報連絡などを行った。また、清流会内で勉強会を実施するなどメンバーの知見を深め認定制度の取得につなげた。
残された課題と 次のテーマ	セミナーや情報連絡を通じて会員企業への周知を図ったが、①、②ともに制度の認知率および取得率の向上に関する調査ができなかった。 また、これらに関するアンケート調査の回答率が低く、実態把握に難があったため、会員企業が BCP の重要性を更に認知していく方法を検討していく必要がある。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑩環境委員会

分野名	**3. 社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化** ＜背景、課題、リスク＞ 地球環境の変化（温暖化） 甚大災害、感染症の拡大 環境規制の強化 地球環境の変化（温暖化）
テーマ	◇環境負荷の少ないものづくり、環境意識の高い職場づくり ◇守りの環境規制対応から攻めの環境経営への移行
活動目標 （目指す姿）	①環境配慮バルブ登録制度の登録社数が 23 年度末までに 20 社以上になっている（対 20 年度比 2 倍以上）。 ②工業会が、会員の環境目標設定とその達成の支援を行っている。 ③会員の環境への取組みを、工業会 web サイト等を通じて PR できている。 ④バルブに関係する環境規制情報を会員に提供できている。
成　果	①脱炭素化委員会を設置し、カーボンニュートラル推進のための体制を構築。 ②会員向け情報提供拡充の一環として、HP 新コンテンツ「環境 Q&A」とメルマガ配信をスタート。 ③「バルブ製品アセスメントガイドライン」改定版発行。 ④会員企業の環境への取組事例紹介をテーマとするセミナーを 21 年 9 月と 23 年 9 月に開催。22 年は通常総会のイベントとして、経産省素形材産業室・須摩室長補佐（当時）と堀田会長（当時）、横山副会長による、カーボンニュートラルをテーマとするシンポジウムを企画。 ⑤欧州の PFAS 制限案に対応するための専門チームを組織し、ECHA（欧州化学品庁）へのパブコメを提出。また、個社でパブコメ提出を希望する会員への個別相談会も開催。
残された課題と 次のテーマ	①CO2 排出量削減目標の設定。 ②環境配慮バルブ登録社数は目標に達しなかった（23 年度末時点の目標 20 社以上に対し、現状は 10 社）。 ③HP コンテンツ「環境 Q&A」は一度情報を掲載して以降、新情報の追加ができていない。 ④V70 の活動目標に掲げた「会員企業の環境目標設定とその達成支援」については、とくに具体的な動きはなかった。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑪広報委員会

分野名	**4. バルブ産業の認知度向上** ＜背景、課題、リスク＞ 人財確保（獲得） 会員数の維持 素形材関連団体以外との業界連携
テーマ	◇産官学の連携向上 ◇学生、中途の人財獲得
活動目標 （目指す姿）	より広報活動を活発化させ、一般・会員企業のニーズに応えられる情報を、必要なときに必要な内容が発信できており、優秀な人財を会員企業が継続的に採用できている。
成　果	①バルブの写真・川柳の組み合わせによるバルブフォト五七五コンテストを継続実施することで、一定の認知度向上活動ができた。 ②SNS を新設するとともに成果①の開催方法を見直し、気軽に写真と作品名を Instagram から年中応募可能なバルブフォトコンテストを開催。 ③従来のばるちゃん着ぐるみに比べ、展示会などのイベントでより露出・活用しやすいようなパペットを制作（コロナ禍のため 2021 年度からは着ぐるみ出演なし）。 ④メルマガ「JVMA ネクスト」の内容を改善した。
残された課題と 次のテーマ	①会員企業のリクルート活動の一助となるよう、会合・事業報告として偏りのある SNS の発信内容や運用目的を再考し、会員企業より素材提供を受け、企業紹介としての運用も図るとともに、地方の職業募集情報誌やネットメディアなどへの寄稿を行う。 ②会員企業への周知依頼や報告に偏らないよう、各社で活用できるツールの作成・見直しを図る（他団体や新入社員向けに、従来パンフレットの刷新や、当会説明用のデータ資料など）。 ③国外の知名度向上により販路開拓と一助となるよう、海外向けの広告出稿・寄稿を実施する（2020 年 4 月には雑誌：バルブワールドに英文紹介記事を寄稿）。 ④ばるちゃんパペットの制作による着ぐるみ運用方法を再考のうえ、展示会などのイベント出演を実施する。

V70「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」
2021～2023 年度：中期活動計画【総括】

⑫バルブ技報編集委員会

分野名	**4. バルブ産業の認知度向上** ＜背景、課題、リスク＞ 人財確保（獲得） 会員数の維持 素形材関連団体以外との業界連携
テーマ	◇産官学の連携向上 ◇学生、中途の人財獲得
活動目標 （目指す姿）	バルブ技報の在り方を検討し、会員企業の幅広い層に届く情報が掲載できている。
成　果	①技術誌：バルブ技報の発刊により一定の認知度向上活動ができた（特集：計測、画像処理／樹脂／DX／環境配慮への取組み／配管・バルブの保温保冷材／製品の改善）。 ②バルブ関連団体の紹介記事（機関・協会など）を新規連載することで、繋がりを深めることができた。 ③紙媒体と電子媒体それぞれのメリット・デメリットを再確認し、バルブ技報のあり方を議論し、課題の抽出を行った。
残された課題と 次のテーマ	①バルブ技報の従来贈呈先を見直し、情報を行き届けたい宛先と一致しているかをアンケートを用いて聞き取りし、活用方法を見直す（例：リクルート活動の一助となるよう、理系大学と繋がりがある会員企業への追加贈呈／会員企業とバルブの使用先を繋げるツールとして見学訪問時の贈呈／学校関係者・公共研究機関（教育機関、官公庁の研究開発機関）を対象としたアカデミック割引制度のニーズ確認　など） ②特集テーマは編集委員の提案で決まることが多いため、読者が欲しい情報と合致しているか、また、興味があるテーマなどを聞き取り読者満足度の向上に繋げ、販売先の増加を図る。 ③文章の検索性を高める取り組みを行う（例：報文のアブストラクト掲載など）。